

いりよの ひろば

Vol.
231
2018.3.25

■1面 高槻病院建て替え工事
まもなく完了

■2面 関西大学中等部で
「がんの授業」を開催しました
災害訓練について ほか

■3面 地域医療連携
「医療法人聴道会 櫛原医院」

■4面 集中治療室のご紹介

高槻病院 建て替え工事が まもなく完了します

2018年5月に高槻病院の約8年に及んだ建て替え工事が完了します。

■建て替えまでの歩み

高槻病院が現在の場所に移築されてから約30年を迎えた2010年(平成22年)、老朽化し手狭になった高槻病院を建て替える計画が立ち上がりました。スペースが限られていたので、一度に新築する余裕はありませんでした。そこで3期に分けて少しずつ壊しては建てるという「現地建て替え方式」を選択しました。この狭隘な土地で診療活動を維持しながらの建て替えには大きな技術的困難がありました。大林組がその難題を引き受けてくれました。計画から3年余り経過した2014年(平成26年)10月に1期工事が竣工しました。完成形のおよそ半分にあたる病棟と手術室・集中治療室・救急センター・カテーテル検査室などの高機能部分です。それから2年半が経過した2017年4月に2期工事が竣工しました。残り半分の病棟と外来・新生児集中治療室・透析室などです。入院患者さんの引越しを終えてから、南側に残った高槻病院旧館を解体して、車寄せ(ロータリー)と公開緑地を作る3期工事に移行しました。そして2018年(平成30年)5月に3期工事が終了して高槻

病院の建て替え工事がようやく完了するというわけです。

■高槻病院のこれから

ロータリーにタクシー乗り場が移動します。雨に濡れずに車に乗降できるようにします。今までご不便をおかけして申し訳ございませんでした。また、愛仁会リハビリテーション病院と高槻病院は延長した陸橋で再びつながる事になります。JR高槻駅から雨に濡れずに受診できるようになります。愛仁会リハビリテーション病院の3階部分には、地域の皆様に利用していただけるス



愛仁会看護助産専門学校

愛仁会リハビリテーション病院

▲愛仁会リハビリテーション病院側から望む完成図

■高槻病院の使命

得意の小児周産期医療のみならず、心臓や脳といった命に直結する臓器の治療・がん診療・救急医療といった幅広い分野においてより高い診療レベルを目指してがんばってゆく事が急性期病院としての高槻病院の使命であると考えております。

補足

急性期病院とは、ごく簡単に述べるならば思わぬ病気が見つかった！という場合にすみやかに入院治療や手術が受けられる病院をいいます。したがって、病状が落ち着いたら時点でリハビリテーションをしながら家に帰る準備をする病院に転院します。これを回復期病院と呼びます。そして自宅に戻ったあとの健康の維持を行政や地域の住民が協力して支援するという流れです。日本政府・厚生労働省はこの流れを地域包括ケアシステムと呼んでいます(聞きなれない用語ですよ)。こういった医療・介護・福祉のしくみについては、また別の機会に詳しくお伝えしたいと思います。



院長
高岡 秀幸

関西大学中部で「がんの授業」を開催しました

副院長/がん診療支援センター長 土師 誠二



「中学生にがんの授業を行う」、この難問に取り組んで今年で2年目、平成30年1月27日(土)に関西大学中部部中学3年生を対象に「道徳(考える科)～いのちの学習～」において「がんの授業」を行いました。今年で2回目となる「がんの授業」ですが、昨年は初めてでしたので学校長や道徳主担、授業担当教師への挨拶、前もって授業風景を確認するための授業見学、「がんの授業」内容についての中部部との打ち合わせ、厚生労働省からの授業要望事項など多くの調整が必要でした。また、中学生の関心を高めるために、授業内容にも興味を引く「がん」の情報と症例提示によるスモールグループディスカッションと工夫を凝らしました。今年は今も蓄積し、滞りなく授業を行えるはずでしたが、「がん」に関する今年のトピックスを加えて昨年より座学の授業時間が少し長くなったところ、授業を聞いていた中学生が授業開始



20分後に突然興味を失う事態に陥りました。その後、授業最後の質疑応答や次のグループディスカッションでは中学生からの活発な意見交換と発表があり、昨年と変わらぬ熱気

がありましたので、授業後に道徳主担の先生とも相談したのですが、中学生の座学での授業集中時間は20分程度で、出来るだけ興味を持たせるよう授業内容もいろいろと工夫されているという事でした。現代の中学校教師の授業に対する創意工夫と熱意に改めて感心させられると同時に、基本的に医療従事者を対象に話す機会の多い私には情報伝達の奥深さを考えさせるものがありました。しかしながら、今回の「がんの授業」も大変好評でありまして、授業の感想文を拝見しましても、「がん」に関して初めて詳しく説明された、症例検討では「がん」に罹った人のことを深く考える経験が出来た、といった感想が寄せられました。学校長や道徳主担からも今後も継続的な実施を希望されております。「がんの授業」はがん診療拠点病院の必要事項であり、地域貢献の意味からも重要です。

高槻病院がん診療支援センターでは、地域医療部と連携してこれからも「がんの授業」を続けて参りたいと思っております。最後に、休日にも関わらずこの授業にご協力いただきました高槻病院がん診療支援センターの船田先生、緩和ケアチームの中村先生、中川看護師、田口ソーシャルワーカー、地域医療部の家山科長には厚く感謝の意を申し述べたいと存じております。

近畿2府4県の災害訓練について

管理科主任 今田 幸佑

▶大阪府三島救命救急センター 頭司先生による講演



去る、2月17日(土)に大規模災害を想定した災害訓練を実施しました。内容としては、2月16日(金)午後11時に大阪府北部を震源地とする震度7の地震が発生し、大阪府災害医療本部が立ち上がり、発災2日目である2月17日(土)に災害医療活動を実施する想定での訓練でした。大阪府三島救命救急センターと大阪医科大学附属病院のDMAT隊員の方が高槻病院へ来られ、①三島医療圏における災害医療について②上述の災害状況を想定した机上訓練③MCA無線を使用した通信訓練を実施しました。今回の訓練内容を基に、地域の皆様



①院長チーム
机上訓練：「もしも高槻病院が被災したら？」



②起塚先生チーム
机上訓練：「もしも高槻病院が被災したら？」

※DMATとは

「Disaster Medical Assistance Team」の略称であり、三島医療圏(高槻市・茨木市・摂津市・島本町)には大阪府三島救命救急センター、大阪医科大学附属病院、高槻赤十字病院に設置されています。

がいつでも安心して診療を受けられる環境を災害時でも整えていきます。

高槻市立第六中学校での「命の授業」に参加して

小児科 近藤 淳

2月28日(水)、高槻市立第六中学校にて「命の授業」にインストラクターとして参加させて頂きました。

医学生時代に救急サークルを通じて高校生にBLS(Basic Life Support:一次救命処置※)講習を行った経験もあって参加することにしたのですが、今回は中学2年生に命の大切さを伝えるということで、多感な時期の子ども達がどんな反応をしてくれるか、始まるまでは楽しみ半分不安半分といった気



持ちでした。

始まってみると本当に礼儀正しい生徒さんばかりで、積極的に参加してくれる子どもも多く驚きました。皆さん理解も早く、シナリオを通じて盛り上がる時間も作ることができ、楽しみながら学ぶ機会になってくれたのではと思っています。

BLSは誰でもできることである一方で、実際に倒れている人に声をかけることはとても勇気がいることです。昨年受講された生徒さんが、倒れている方を見かけて声をかけ搬送に至った事例があったことを聞き、子どもの素直さと勇気に感服するとともに、この授業の意義を再認識しました。

このような活動が広く浸透し、命を繋げられる方が増えることを願い、私自身も精進していきたいと思います。



※一次救命処置とは、急に倒れたりした人に対して、その場に居合わせた人が救急隊や医師に引継ぐまでの間に行う応急手当のこと

榎原医院 榎原 崇宏 院長

地域の患者さんに信頼され続ける診療を目指して



一開院の経緯

当院は昭和57年に父が高槻市川添に耳鼻いんこう科を開業しました。町のかかりつけ医として診療してきた父の背中を見て育ってきた私は、いつか父と同じ医者になりたいと思っており

兵庫医科大学医学部を卒業し、科を選択する時には迷わず父と同じ耳鼻科を専攻しておりました。大学卒業後は大阪医科大学で臨床研修を受け、その後も関連病院で様々な耳鼻科的手術の症例などを経験し、今でも大学病院で非常勤講師として診察を行っております。

一専門分野

父が開院してから、長年にわたり地域のかかりつけ医として様々な耳鼻科的疾患に対応しております。第一に患者さんに丁寧でわかりやすい診療を心がけております。治療にあたりましては、正確な診断とともに、患者さんに不安の無いように、治療方針をわかりやすく説明しています。また当院で治療が可能であるか、あるいは専門性を備えた病院を紹介することが良いのかなど、最良の方法を提案しています。

父が地域の他の診療所と信頼関係を作ってくれているため、耳鼻科的疾患ではなく、内科的疾患などで治療が必要と判断させていただいた際は、診療所どうしの横のつながりを活用して、すぐに近くの診療所やクリニックの先生にご紹介させていただいています。5年前には、小さなお子さん

や車いすの患者さんにも快適に過ごしていただけるようバリアフリーへ改築しました。待ち合いにはキッズルームを併設し、診察室に車いすのまま入室していただけるようにしております。

一高槻病院への要望

ご家族や知り合いの方が通っているからと、高槻病院を希望される患者さんも多いので、今後もスムーズな受け入れをしていただきたいと思います。特に高槻病院

の小児科は医療体制がしっかりとしているのので、迅速に対応していただいております。助かっています。

榎原先生、お忙しい中インタビューをお受け頂きありがとうございます。理事長であるお父様の要望で設計・改築された院内は、車いすの方でもスムーズに診察を受けられるようバリアフリーになっており、木のぬくもりを感じながら自然光がたくさん入る明るい待合室が印象的で、いつまでも居



たくなるような、とてもくつろげる空間でした。ゆったりお話しを聞いてくださる先生のお人柄と大学病院での豊富な経験で、安心して診察が受けられる地域に密着した医院はとても大きな存在だと感じました。引き続き先生からのご依頼によりスムーズにお応えできるよう努めて参りますのでよろしくお願いたします。(地域医療部 中西 大園 波々伯部)



医療法人聴道会 榎原医院 いちはらいいん

〒569-0824 高槻市川添2丁目15-23

TEL.072-694-7609

【診療内容】耳鼻咽喉科

【診療時間】午前9時～12時、午後4時30分～7時

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	×	○	○
午後	○	○	○	×	○	×

※休診日は木曜、土曜午後、日曜、祝日です。

集中治療室のご紹介

院長の高岡です。

高槻病院には一般の病室では十分に対応できない重症な患者さんを24時間体制で全身管理する集中治療室が5種類(ICU、PICU、MFICU、NICU、SCU)あります。今号ではICU、PICU、MFICUをご紹介します。



▶まずはICU(集中治療室) 集中治療部長/心臓血管外科主任部長 岡 隆紀



カーテンの奥には患者さんがいて、岡先生が看護師に指示を出しています。

ICU(集中治療室)のイメージはどのようなものでしょうか？

医療機器がたくさんベッドの周りにあり、モニターやアラームの音がしている。働いている看護師さんは、マスクをしていて、顔がよくわからない。たくさんの医療機器を扱っている。入室する人は全て意識がなく重症である。このようなイメージでしょうか。

集中して医療を提供する場ですので、患者さん、ご家族、そして医療者にとって、緊張感のある場所であることは間違いありません。

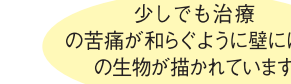
当院3階に全8床のICUがあり、重篤な臓器障害を有する患者さんや、機械補助など特殊な治療を必要とする患者さんを対象とし、全身状態の回復を目指して治療しています。地域住民の皆さんが最良の医療を受けられるように、医療技術・知識を修得するため限らない努力を積み、多くの診療科との連携を図り、診療科の枠を越えた知識と経験を生かし、重症患者さんの救命に力を注ぐことがICUの使命であると考えています。専従医師と看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士、栄養士などの多職種専門スタッフが協力し合い質の高い集中治療を提供し、少しでも早い退院・社会復帰を目指して日々治療にあたっています。

▶次にPICU(小児集中治療室) PICU主任部長 起塚 庸

皆さんは『PICU』ってご存知ですか？正式には『Pediatric Intensive Care Unit』といいますが、日本語にすると『小児専用の集中治療室』になります。これまで日本では成人と小児(生まれたばかりの新生児を除いて)には、同じICU内で集中治療を提供してきました。しかし、小児ならではの病気や怪我があり、「小児」は「小児専門のPICU」で治療した方が子ども達の回復が良くなるのがわかってきました。そこで、高槻病院では新病棟ができた4年前からPICUを設立し、重篤な病気や怪我で苦しむ多くの子ども達のお手伝いをしています。小児の集中治療を専門にした医師や看護師だけでなく、小児外科、小児脳神経外科、小児麻酔科、理学療法士、薬剤師等の方々と一緒に小さな命を救うために最前線で頑張っています。



プライバシー保護のため1つ1つ個室のようになります。



少しでも治療の苦痛が和らぐように壁には海の生物が描かれています。



とてもたくさんの点滴やチューブ...少しでも回復するようにPICUの皆さん、よろしくお願ひします。

▶最後にMFICU(母体・胎児集中治療室) MFICU病棟看護科長 大藪 裕子

MFICU(母体・胎児集中治療室)では、24時間365日救急搬送を受け入れ、母子の救命救急への対応、ハイリスク妊産婦さんに集中的なケアを提供しています。

新病棟には4つのLDR(陣痛分娩室)があり、陣痛が始まってから産後の回復までをご家族とともにゆっくり過ごしていただけます。また、緊急時は速やかに帝王切開が行えるよう帝王切開手術室とハイリスク分娩室を併設しており、産科医と助産師が24時間手術に対応できる体制を整えて、母子が安全に安心して出産していただけるよう全力を尽くしています。

当院に来られた全ての妊産婦さんが安全・安心に治療が受けられるよう、MFICUのスタッフ一同これからも努力していきます。今後ともよろしくお願ひいたします。



これが帝王切開手術室ですね。

いかがでしたか？ICU、PICU、MFICUでは重症な患者さんを救うために様々な職種が協働して治療にあたっています。24時間365日、質の高い集中治療が提供できるように今後も頑張ります。では次号もお会いしましょう。

社会医療法人 愛仁会 高槻病院

■高槻病院の理念「患者さまの満足する医療」

■患者さまの権利

1. 患者さま個人の人格や価値観が尊重され、医療者との信頼関係の下で、良質で安全、公正な医療を適切に受ける権利があります。
2. 病気の診断・治療・予後などに関して、その効果や危険性、または他の方法の有無について、理解できるようにわかりやすい説明を受ける権利があります。
3. 理解できるわかりやすい説明を受けたのち、検査の諾否や治療法の選択などについて自分で決定する権利があります。

■患者さまの責務

1. 患者さま自らの健康状態に関する情報をできるだけ正確に医療者に伝える責務があります。
2. 病気の診断・治療・予後などに関して、理解できるまで質問をする責務があります。
3. すべての患者さまが良質で安全な医療を適切に受けることができるように、他の患者さまの診療や病院の医療提供に支障をきたさないように配慮する責務があります。

愛仁会リハビリテーション病院	〒569-1116 高槻市白梅町5番7号	☎072-683-1212
しんあい病院	〒569-1123 高槻市芥川町2丁目3番5号	☎072-681-5533
しんあいクリニック	〒569-1035 高槻市西之川原2丁目4番3号	☎072-668-5000
愛仁会高槻在宅サービスセンター	〒569-1116 高槻市白梅町5番7号	
訪問看護ステーション愛仁会高槻		☎072-686-1876
ケアプランセンター愛仁会高槻		☎072-686-1882
ケアプランセンターケーアイ		☎072-687-2536
ケアプランセンター愛仁会富田		☎072-692-2941
しんあいケアプランセンター		☎072-680-3000
ヘルパーステーション愛仁会高槻		☎072-686-1875
ヘルパーステーション愛仁会富田		☎072-692-2941
介護老人保健施設ケーアイ	〒569-1051 高槻市大字原112番地	☎072-687-0103
介護老人保健施設しんあい	〒569-1035 高槻市西之川原2丁目4番1号	☎072-680-3000
愛仁会総合健康センター	〒569-1143 高槻市幸町4番3号	☎072-692-9291
愛仁会看護助産専門学校	〒569-1115 高槻市古曾部町1丁目3番33号	☎072-681-6031